



2005 年 (平成 17 年)
6 月号 (No. 721)

社団法人 日本山岳会
The Japanese Alpine Club

定価 1 部 150 円

URL ● <http://www.jac.or.jp>
e-mail ● jac-room@jac.or.jp

目 次

平成17年度通常総会	1
平成16年度事業報告	5
収支計算書・正味財産増減計 算書・貸借対照表	6
財産目録	7
監事監査報告・平成17年度事 業計画	9
平成17年度収支予算書	10
100周年記念事業 会員並び に有志募金の御礼とご報告(2)	11
報告	12
総務／ミニ水力発電／学生部 東西南北	14
ルームの図書室は資料の宝 庫／残雪期の中国側の長白 山／還暦を過ぎたら山を歩 きたくなった／ポカラ山岳 博物館のこと	16
図書紹介	16
新入会員	18
Climbing & Medicine	45
会務報告	20
ルーム日誌	21
INFORMATION	22

▶ 日本山岳会事務(含図書室)取扱時間
月・火・木 10～20時
水・金 13～20時
第2、第4土曜日 閉室
第1、第3、第5土曜日 10～18時
ルーム夏期休業日 8月13～21日

平成17年度通常総会 平山善吉会長を再任

平成17年度通常総会が5月21日14時から東京・麹町の弘済会館で開かれた。会員125人が出席し①平成16年度事業報告及び収支決算・財産目録の承認、②平成17年度事業計画及び収支予算の承認、③平成17・18年度役員及び評議員改選、④平成17年度除籍者1の件について審議した結果、いずれも原案どおり可決承認した。(事業報告等の詳細内容は別掲)

■会長あいさつ

山登りを語る楽しい会に

議案審議に先立ち平山善吉会長

はあらまし次のように挨拶した。

一、16年度末の会員は5735人だった。1年前と比べ93人の減少である。わずかながらではあるが、減少傾向が続いている。一、100周年記念事業は、秒読み段階にはいった。10月15日の総合式典と前後して全国8つのブロックで記念式典を行う。全員参加をモットーに100周年にふさわしい式典にしたい。海外登山は、学生部、また東海・関西支部などが実施している。事業委員会のマナスル登頂は、残念ながら悪天候で断念した。国内の中央分水嶺踏査は、

宗谷岬から佐多岬まで5000⁰のうちの75%を終えた。自然保護では、白神山地などで森づくりを進めている。

一、文化活動では英文ジャーナル、「新日本山岳誌」などの発刊だ。募金は8500万円の目標に對し今月中に5500万円が集まる見込みだが、かなりの困難が予想される。ご協力いただきたい。このほか100周年を期して会員室・談話室の整備を検討中だ。

一、将来ビジョンを検討中である。組織を簡素化・活性化させ実行計画をたてたい。愛される会として発展するために試される年でもある。来年は当会のマナスル登頂50周年を迎える。登山に徹し、山登りを語る楽しい会

■事業報告・収支決算 記念登山相次ぐ

この日の総会には2799の委任状が提出された。現在在籍者は5749人であり、出席者を合わせると、会員の3分の1を上回って総会は成立した。

事業報告・計画は藤本慶光総務担当理事、収支決算・予算及び財産目録は橋本清副会長財務担当が説明した。

〔事業報告〕 4月11日には高尾の森で4回目の植樹祭を実施した。5月10日には、渡辺兵力名誉会員の講演会を開催した。連続講演会「語り継ぐ黎明期の登山」の第2弾。第58回ウェストン祭は6月6

にしていきたい。



5月12日に開かれた通常総会での新役員の紹介

日に開催。新入会員が徳本峠を越えて参加した。7月12日には同好会連絡会議を開き23の同好会が参加。9月7日にはテンギ・ラウ・タウ遠征登山の報告会を開催した。登頂できなかったが、興味深い内容だった。9月8日には中村保海外委員がインド・カルカタで講演。9月11日～13日には全国自然保護全国集会上高地で開催した。全国支部懇談会は10月2日～3日熊本で行った。170人以上の会員が参加し、阿蘇山に登った。10月6日には、連続講演会第3弾として坂倉登喜子名誉会員の講演会を開催。10月16日には新入会員オ

リエンテーションを実施。10月22日には学生部がムスタン登山報告会を開催。12月4日の年次晩餐会には560人が参加。翌日の記念山行では群馬・碓氷峠で分水嶺踏査事業に加わった。1月20日には医療委員会が「山での突然死を考える」と題して100周年記念シンポジウムを開いた。2月19日～20日には支部事務局担当者会議を開催。

これらのほか、海外登山では、事業委員会が4月7日～5月17日にテンギ・ラウ・タウに遠征隊を派遣、関西支部が7月24日～10月30日に西チベットに学術登山隊を、学生部がムスタンに遠征隊をそれぞれ派遣した。8月26日～29日には事業委員会で韓国北漢山への登山を実施した。

〔収支決算等〕 収支決算は、収入が8535万円となり、予算を669万円下回った。会費・入会金収入は6777万円で予算額を358万円下回った。事業収入は819万円。補助金収入213万円は高尾の森づくりに対する国土緑化推進機構からの助成金。620万円の特定預金取崩収入は4月に資金不足になったため取り崩した

ものだが、期末に差し戻している。支出総額は8264万円となった。うち事業費は4713万円。

海外登山補助費は2件しかなく予算を大きく下回った。管理費は2815万円。秩父宮記念賞基金へ100万円支出する予算をたてたが、実行しなかった。基金の利子では基金を運営できず、会の運営資金から支出している。

当期支出合計は、8264万円。次期繰越収支差額は1089万円、期末正味財産合計額は4億1704万円となった。前期比455万円の増加。

これらに対し内田博監事から収支計算書等が正確かつ妥当であり、さらに理事の業務執行が誠実に行われたことを認める監査報告があった。

■17年度事業計画・収支予算

ブロック式典は東北から開始

〔事業計画〕 4月15日にマナスル遠征隊が出発したが、悪天候のため、撤退を余儀なくされた。連続講演会第4弾として村山雅美名誉会員の講演会は4月22日に実施した。5月28日には100周年記念

式典を東北ブロックで行う。ブロック別の記念式典は、この東北を最初として6月に京岐北陸、7月に九州、8月に北海道、9月に中国と中部日本、また10月に東海、11月に関西で行う。

そして10月15日には東京で総合記念式典を実施する段取りだ。翌16日の記念山行は高尾の森で行う。このほか、新入会員のための徳本峠越えとウェストン祭を6月に行う。全国支部事務局担当者会議は2月に開き支部の運営にたずさわっている担当者が話し合う。自然保護活動では高尾の森づくりのほか白神、猿投の森づくりを引き続き行う。医療委員会が「山の救急医療ハンドブック」を製作する。

〔収支予算〕 これらに対する予算は、収入を9058万円とした。前年度予算に比べ146万円の減少となった。入会金収入は360万円で同40万円の減少。通常会費収入も同150万円減の6550万円と見込んだ。収入には「長期計画準備金」預金の取り崩し1000万円が含まれているが、100周年を迎えたことでもあり、予算として計上した。

支出は同702万円減の913

新副会長に田邊壽氏

質疑応答のあと、各議案を承認
役員・評議員の改選に移った。新
しい理事と監事、また評議員が提
示され、拍手でもって承認した。
この結果、会長が再任、新副会長
に田邊壽氏が選任され、理事と評
議員の半数近くが入れ替わった。

4号議案は除籍対象者の件。平成17年度の除籍対象者は111人にも達した。会費を3年間滞納した人が除籍の対象となる。実際の除籍者は、13年度50人、14年度66人、15年度63人、16年度56人と推移している。これに関し、知人に声をかけ会費を納めて留まるよう勧めて欲しいという要請があった。除籍対象者のなかには入会して間もない会員番号130000番台という会員も多く、紹介者は適切に対処してほしいと

いう要望もあつた。

100周年記念事業

募金実績は4457万円

100周年記念事業について、平林克敏副会長と橋本副会長が報告した。

昨年、の総会で了解いただいた線に沿って歩んでいる。「百年史」は全員配布を原則として進めてきたが、「本棚のこやしでも困る」という意見もあり、希望者だけに配布するのか、有償なのか、無償なのか—などを鋭意検討している。英文ジャーナルは、300部^{ページ}ぐらいになる。1500部を予定している。記念の海外登山は、支部でも福井、富山、東海、福岡などいろいろな計画がある。くれぐれも事故のないようにと思っている。総会式典を開くので年次晩餐会は開催しないが、永年会員のことや秩父宮記念賞の授与をどうするか、を検討しなければならない。募金収入は3月末現在で4457万円である。

これに続き、石田要久理事が、中央分水嶺踏査事業について「5月の連休が終わったところで全体

の75パーセントを終えた」と報告した。

■ 新支部長挨拶

支部長の交代が紹介された。福岡、宮城、関西、山形の5支部で交代、紹介のあと新支部長は、それぞれに挨拶した。

■ 質疑応答

みんなの意見を聞いてほしい

柴田篤志会長（7932）収支決算の予算と決算の差異の計算が逆のように感じられる。決算額が予算額より大きいのに差異がマイナスで表示されるのでは分かりにくい。

橋本副会長 社団法人の会計基準にしたがっているが、議案書では分かりやすい形にできないか検討したい。

石田稔郎会員（6065） 年次晩餐会で出される料理は執行部の努力でよくなっていると思うが会費150000円の内訳はどうなっているのか。

藤本理事 内訳は、食費8000円、飲酒1000～1500円だ。ほかにメイン会場と講演会などの会場費が必要で、それでトントン

となる。案内通信費の約100万円は会からの負担である。

石田会員 この委員会がどのくらい使っているのか、明らかにしてほしい。

橋本副会長 決算は委員会ごとに細かく出している。膨大なボリュームになるので議案書には記載していないが、閲覧したいようならみてほしい。

野田憲一郎会員（5805） 準備金、基金、積立金が、ほとんど金利のつかない普通預金でおいであるのは解せない。

橋本副会長 ペイオフ対策として普通預金にした。情勢が変わってきたので再検討したが、現実には基金の利子だけで活動できない基金をどの程度大きくしていけばいいのか、あわせて検討したい。

江本嘉伸会員（8637） 非常に大事な年だ。これを機に、いろんな声を聞くべきだ。しかし、きょう提案された役員等の候補者リストをみて、個々には申し上げないが、どうして簡単に決めてしまうのか、と思う。長期ビジョン検討委で提案したことについても、みんなの意見を聞く場を設けるべきでないか。「百年史」については、

昨年も申し上げたが、若い人、日本山岳会を知らない人たちに分かってもらう新書版のようなコンパクトなものをつくれぬのか。

平山会長 長期ビジョン検討委の提案を十分に検討した。その結果、できるものから実行していこうということになった。「百年史」については現状でいいという結論だ。役員等の人選についても我々なりに十分に検討した。「若返り優先」という意見もあったが、結果として提案のようになった。

新妻徹会員(5868) 支部長と評議員は兼ねないほうがいいのではないか。

平山会長 そこまで考えなかったというのが現状だ。

大島輝夫会員(4012)

①会報の内容について。委員会について記載が少ないのではないかと例えば学生部なら、年1回くらい加盟大学山岳部の活動を調査し結果を記載してはどうか。青年部「きりぎりす」の目次を紹介してはどうか②クラブ活動の場として、御茶ノ水時代のように談話室を復活してほしい③会の運営の透明性を高めるために、すでに官庁が取り入れているようなパブリックコ

メントをとることを考えてもいいのではないか。

平山会長 貴重な意見だ。まさに、その通りだと思う。

柴田会員 募金に対する免税は、どのようになっているか。

藤本理事 会員にお願いしている9千円の募金は、免税の対象としていない。企業等からの寄付については、3万円以上をメドに、それぞれ免税手続きを体育協会に申請している。

■平成17・18年度新役員

理事・監事

会長	平山 善吉	再任
副会長	平林 克敏	再任
副会長	橋本 清	再任
副会長	田邊 壽	新任
理事	石田 要久	再任
理事	賛田 統重	再任
理事	篠崎 仁	再任
理事	大蔵 喜福	再任
理事	野口いづみ	再任
理事	斉藤 健一	新任
理事	吉永 英明	新任
理事	藤井 正善	新任
理事	渡邊 雄二	新任
理事	石橋 正美	新任

理事 古野 淳 新任
監事 一力 英夫 再任
監事 山本健一郎 新任

評議員

再選 村上勝太郎、小倉 薫子
竹田 寛次、中村 保
松永 敏郎、和田 豊司
西村 政晃、重廣 恒夫
高原 三平、磯野 剛太
田中 文男、深川 安明
新任 日下田 實、岩坪 五郎
河野 長、田部井淳子
今村 千秋、藤本 慶光

総会終了後、懇親会を開いた。平山会長は「総会はいつもハラハラする」と挨拶し爆笑をさそった。吉村健児永年会員の音頭で乾杯し和やかな歓談を続けた。
(文・高橋重之、写真・今村千秋)

新副会長、田邊壽氏紹介



新副会長の田邊氏

1931年、青梅に生まれた。立川高校に入学、山岳部を創り山登りをはじめ、慶応大学では山岳部に入部。雪洞による剣岳より西穂にいたる積雪期北アルプス主脈初縦走など本格的に山に登る。卒業後、日本山岳会に入会(No. 4618)。1958年、日本山岳会ヒマルチュリ遠征隊に参加。59年慶応義塾ヒマルチュリ登山隊に参加、初登頂。69年日本山岳会エヴェレスト南西壁偵察隊に副隊長として参加。理事4期、評議員2期をつとめる。アルパインスケッチクラブのメンバーの一員として日本の山や、ノルウェー、スイス、アラスカ、カナダの山に登る。仕事は三越からダイエーに移り、プランタン百貨店を創設し社長を勤め、ダイエー専務・福岡ホークス社長を経てマルコムの管財人社長として01年更生計画を終了し仕事をおえた。

山岳会の100年に際し、長期目標設定委員会の委員長として答申を行う。

今年は9月に慶應大学山岳部OB達とチベットの未踏峰カルシヨン峰(6647m)に登る予定で、現在も登山活動を続けている。

12月8日	渡辺徳逸翁の取材 (資料・映像)	渡辺家 (静岡)
12月9日	講演会「南アラスカの山」大蔵喜福 (青年部・学生)	山研
12月30～1月3日	山研保守状況チェックの為の年末年始開所	上高地
1月8～10日	スキー懇親山行 (事業)	乗鞍高原
1月20日	100周年記念シンポジウム	山研
	「山での突然死を考える」(医療)	東京体育館
1月27日	JAC加盟大学山岳部冬山報告会 (学生部)	山研
2月9～10日	アイスクライミング講習会 (学生部)	ハッ岳
2月17日	講演会「登山行動とサプリメント」(科学)	山研
2月19～20日	支部事務局担当者会議 (総務)	グリーンホテル水道橋
2月19～20日	日山協、HAJ主催の海外登山研究会参加 (海外)	青少年オリンピックセンター
2月24日	講演会 (青年)	山研
3月1日	第33回山岳史懇談会 (図書)	山研
3月11日	大学山岳部監督会議 (指導・学生部)	山研

2. 登山施設の運用、その他登山のための適切な事業

- * 上高地山岳研究所の運用
- * 受入れ資料保管
- * 各博物館、美術館との提携強化
- * 海外遠征の記録、会合、行事等の記録、フィルムのデジタル化による保存

3. 山岳遭難の予防とその対策に関する企画及び指導

- * 7月 全国山岳遭難対策協議会への出席 (高知市)
- * 通年 日山協・労山・都岳連との合同調査活動

4. 自然保護活動の推進

- * 環境行政等への意見書、政策提言の発信
- * 自然保護委員会による自然保護知識啓発のための自然観察山行
- * 自然保護委員会による「高尾の森づくり」
- * 白神山地育林事業
- * 猿投の森づくり
- * 自然保護委員会会報「木の目草の芽」隔月刊行

5. 機関誌等の発行

- * 山岳第99年 (2004年) の発行
- * 会報707号～718号の発行
- * インターネット・ホームページの更新
- * 海外向英文誌「Japanese Alpine News」発行
- * 青年部会報「きりぎりす」発行

6. 国内及び外国山岳団体との情報交換

- * 国内関係団体 (日本山岳協会・東京都山岳連盟・日本ネパール協会・日本ヒマラヤ協会・HAT-J・その他) との連絡
- * 海外登山団体との機関誌の交換及び情報誌の購入

7. 海外登山等

- * 4月7日～5月17日 テンギ・ラウ・タウ遠征 (事業委員会)
- * 7月24日～10月30日 西チベット学術登山隊2004 (関西支部)
- * 8月18日～10月3日 学生部ムスタン遠征2004
- * 8月26日～8月29日 韓国北漢山 (事業委員会)

8. 百周年記念事業の計画推進

- * 百年史の編集
- * 「新日本山岳誌」の編集
- * 中央分水嶺踏査
- * 海外登山

9. その他目的を達成するために必要な事業

- * 山岳図書の整備
- * 山研ミニ水力発電装置稼働運営
- * 海外登山基金による助成
- * 第7回秩父宮記念山岳賞の授与
- * その他

(社)日本山岳会 平成16年度事業報告

2005年4月1日～2005年3月31日

1. 登山の指導と奨励に必要な集会、研修会、講演会、展覧会、及びシンポジウムの開催

4月7日	テンギ・ラウ・タウ遠征登山出発 (事業)	山研
4月9日	第32回山岳史懇談会 (図書)	山研
4月10日	上高地温泉ホテル100周年記念式典 (資料・映像)	松本
4月11日	高尾の森植樹祭 (自然保護)	東京・高尾
4月29日	山研開所 (山研)	上高地
5月10日	第2回連続講演会 (渡辺兵力氏) (資料・映像)	東京体育館
5月13日	JAC加盟大学山岳部総会 (学生部)	山研
5月14日	支部長懇談会 (総務)	弘済会館
5月15日	支部長会議 (総務)	〃
5月15日	通常総会 (総務)	〃
5月20日	山岳映画会 (資料・映像)	山研
5月21日	高所研究会「ムスタン登山隊」(学生部)	山研
5月22～23日	自然観察山行 (自然保護)	東大秩父宮御林
5月28～30日	紅葉山行 (事業)	乳頭山
5月29～30日	第24回日本登山医学シンポジウム (医療)	東京女子医科大学
6月24日	海外講演シリーズ「厳冬シベリア横断」 安東浩正 (海外) 学習院百周年記念会館	〃
6月5～6日	新入会員のための「徳本峠越えとウエストン祭」(山研)	上高地
6月6日	第58回ウエストン祭 (信濃支部)	〃
6月12～13日	探索山行「七ヶ岳の地形的特徴とその成因を学ぶ」 (科学)	南会津
6月29日	第13回山を語る (図書)	山研
7月8～9日	全国山岳遭難対策協議会への出席 (指導)	高知市
7月9～11日	夏山登山 (事業)	加賀白山
7月12日	同好会連絡会議 (総務)	山研
7月15日	学生部ムスタン遠征壮行会 (学生部・指導)	山研
7月15日	講演会「異常気象について」(科学)	山研
8月26～29日	海外登山 (事業)	韓国 仁寿峰・仙人峰
9月1日	首都圏会員懇親会 (総務)	山研
9月7日	テンギ・ラウ・タウ遠征登山報告会 (事業)	山研
9月8日	中村保委員ヒマラヤンクラブ・カルカット講演 (海外)	カルカット
9月11～12日	自然保護全国集会 (自然保護)	上高地
9月18～19日	オータムコンサート (山研)	〃
9月25日	講演会「ブータンの山」米宮丈晴 (青年部)	山研
9月25日	名誉会員を囲む会 (総務)	山研
9月4日	絵画寄託打合せ (資料・映像)	池田町立美術館
10月2～3日	全国支部懇談会 (熊本支部)	熊本
10月6日	第3回連続講演会 (坂倉登喜子氏) (資料・映像)	東京体育館
10月9～11日	紅葉山行 (事業)	伯耆大山・三瓶山
10月16日	新入会員オリエンテーション (総務)	山研
10月16～17日	分水嶺踏査公登登山 (科学)	馬坂峠～猿倉登山口
10月16～17日	小川山集会 (学生部)	奥秩父
10月22日	ムスタン登山隊報告会 (学生部)	山研
10月25日	第36回山岳図書を語る夕べ (図書)	山研
10月26日	秩父宮記念山岳賞審査委員会	山研
10月30日	第8回全国山岳博物館連絡会議 (資料・映像)	山研
10月30～31日	自然観察山行 (自然保護)	茨城・八溝山
11月5日	山研開所 (山研)	上高地
11月5～7日	分水嶺踏査、科学委員会担当区域偵察山行 (科学)	〃
11月6日	虹芝寮集会 (青年部)	栃木・福島
11月7日	レスキュートレーニング (青年部)	谷川岳・虹芝寮
11月9日	創立100周年記念事業委員会	山研
11月11日	学生部ムスタン遠征報告会 (指導・学生)	学習院大学
11月14日	JAC加盟大学山岳部マラソン大会 (学生部)	皇居外苑
11月18日	講演会「日本の山・世界の山」(科学)	山研
12月4日	支部長会議 (総務)	新高輪プリンスホテル
12月4日	年次晩餐会 (総務)	〃
12月5日	年次晩餐会記念山行 (事業)	碓氷峠

会議費	180,000	85,985	94,015
什器備品費	100,000	0	100,000
振替手数料	800,000	622,480	177,520
銀行振込手数料	0	40,105	-40,105
福利厚生費	300,000	259,356	40,644
事務所管理費	1,196,680	1,464,627	-267,947
その他管理費	2,800,000	2,310,134	489,866
負担金	80,000	40,000	40,000
退職金	0	0	0
貸借料	5,700,000	5,778,000	-78,000
雑費	900,000	365,316	534,684
管理費計	30,394,880	28,159,046	2,235,834
3 固定資産取得支出			
什器備品購入支出	0	0	0
固定資産取得支出計	0	0	0
4 特定預金支出			
長期計画積立金支出	0	6,200,000	-6,200,000 (注)1
秋父宮記念賞基金支出	1,000,000	0	1,000,000
海外登山基金支出	0	0	0
終身会費積立金支出	0	1,150,000	-1,150,000
退職給与引当預金支出	0	0	0
特定預金支出計	1,000,000	7,350,000	-6,350,000
5 予備費			
予備費	1,500,000	0	1,500,000
当期支出合計(C)	98,409,880	82,645,750	15,764,130
当期収支差額(A)-(C)	-6,364,880	2,707,418	-9,072,298
次期繰越収支差額(B)-(C)	1,821,734	10,894,032	-9,072,298

(注) 1 収入の部 7 特定預金戻し入れ ￥6,200,000

正味財産増減計算書

平成16年4月1日から平成17年3月31日まで

科 目	金 額	
I 増加の部		
1 資産増加額		
当期収支差額	2,707,418	
棚卸資産	696,010	
長期計画準備金	6,200,000	
終身会費積立金	1,150,000	10,753,428
2 負債減少額	0	0
増加額合計		10,753,428
II 減少の部		
1 資産減少額		
長期計画準備金	6,200,000	6,200,000
2 負債増加額	0	0
減少額合計		6,200,000
当期正味財産増加額		4,553,428
前期繰越正味財産額		412,489,723
期末正味財産合計額		417,043,151

貸借対照表

平成17年3月31日現在

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金	110,904	
振替貯金	2,413,972	
普通預金	3,392,186	
定期預金	0	
未収会費	5,196,000	
棚卸資産	2,575,662	
流動資産合計		13,688,724

収 支 計 算 書

平成16年4月1日から平成17年3月31日まで

科 目	予算額	決算額	差 異	備考
I 収入の部				
1 基本財産運用収入				
基本財産利息収入	5,000	2,396	2,604	
2 会費・入会金収入				
入会金収入	4,000,000	2,600,000	140,000	
復活入会金収入	0	160,000	-16,000	
通常会費収入	67,000,000	63,863,000	3,137,000	
終身会費収入	360,000	1,150,000	-790,000	
会費・入会金収入計	71,360,000	67,773,000	3,587,000	
3 事業収入				
広告料収入	1,600,000	1,940,000	-340,000	
印税収入	10,000	0	10,000	
刊行物売上収入	200,000	85,000	115,000	
山研使用料収入	3,500,000	2,393,090	1,106,910	
その他事業収入	4,500,000	3,774,230	725,770	
事業収入計	9,810,000	8,192,320	1,617,680	
4 補助金等収入				
補助金収入	0	2,130,000	-2,130,000 (注)1	
5 寄付金収入				
寄付金収入	0	0	0	
募金収入	0	0	0	
寄付金収入計	0	0	0	
6 雑収入				
受取利息	70,000	18,719	51,281	
雑収入	800,000	1,036,733	-236,733	
雑収入計	870,000	1,055,452	-185,452	
7 特定預金取崩収入	10,000,000	6,200,000	3,800,000 (注)2	
当期収入合計(A)	92,045,000	85,353,168	6,691,832	
前期繰越収支差額	8,186,614	8,186,614	0	
収 入 合 計(B)	100,231,614	93,539,782	6,691,832	

(注) 1 「社団法人国土緑化推進機構」助成金 ￥2,130,000

(注) 2 経常支出引当 ￥6,200,000

科 目	予算額	決算額	差 異	備考
II 支出の部				
1 事業費				
出版費	11,900,000	11,102,530	797,470	
図書管理費	550,000	238,399	311,601	
調査研究費	2,648,000	2,232,863	415,137	
指導費	2,070,000	1,316,039	753,961	
支部関係費	12,000,000	10,765,542	1,234,458	
海外諸関係費	600,000	223,470	376,530	
海外登山補助費	1,600,000	800,630	799,370	
山岳研究所事業費	4,710,000	4,593,901	116,099	
山岳研究所運営費	1,787,000	1,625,000	162,000	
ミニ水力発電	200,000	175,008	24,992	
その他事業費	19,850,000	8,693,537	11,156,463	
印刷・製本費	2,300,000	379,872	1,920,128	
刊行物発送費	5,300,000	4,989,913	310,087	
事業費計	65,515,000	47,136,704	18,378,296	
2 管理費				
給料手当	12,400,000	12,720,456	-320,456	
文具消耗品費	450,000	103,922	346,078	
印刷製本費	1,100,000	1,318,297	-218,297	
旅費交通費	800,000	633,840	166,160	
通信運搬費	1,200,000	568,009	631,991	
火災保険料	340,000	186,190	153,810	
修繕費	100,000	0	100,000	
租税公課	648,200	607,800	40,400	
光熱水料費	800,000	701,177	98,823	
電話料	500,000	353,352	146,648	

4. 固定資産の取得価格、減価償却累計額および当期末残高は、次のとおりである。

科 目	取得価格	減価償却累計額	当期末残高
建 物	153,078,045	0	153,078,045
什 器 備 品	9,584,982	0	9,584,982
合 計	162,663,027	0	162,663,027

財 産 目 録

平成17年3月31日現在

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金		
現 金		
現金手許有高	110,904	
振替貯金		
千代田四番町郵便局	2,413,972	
普通預金		
りそな銀行市ヶ谷支店	1,009,671	
東京三菱銀行市ヶ谷支店	2,046,328	
中央三井信託銀行本店	295,989	
みずほ銀行市ヶ谷支店	3,893	
三井住友銀行飯田橋支店	25,955	
UFJ銀行新宿支店	5,775	
通常貯金		
千代田四番町郵便局	4,575	
未収会費 433名	5,196,000	
棚卸資産 (注) 1	2,575,662	
流動資産合計		13,688,724
2 固定資産		
(1) 基本財産		
貸付信託		
中央三井信託銀行	8,000,000	
基本財産合計	8,000,000	
(2) その他の固定資産 (注) 2		
土 地	73,642,125	
建 物	153,078,045	
敷 金	840,000	
什器備品	9,584,982	
長期計画準備金		
(定期預金 千代田四番町郵便局)	5,043,000	
(定期預金 東京三菱市ヶ谷)	18,003,305	
(普通預金 東京三菱市ヶ谷)	6,200,000	
(普通預金 みずほ市ヶ谷駅前)	800,000	
秩父宮記念基金		
(定期預金 UFJ新宿)	15,000,000	
終身会費積立金		
(定期預金 みずほ市ヶ谷)	19,782,000	
海外登山基金		
(普通預金 りそな市ヶ谷)	33,600,000	
(定期預金 三井住友飯田橋)	30,000,000	
(普通預金 みずほ市ヶ谷駅前)	30,000,000	
退職引当預金		
(定期預金 みずほ市ヶ谷)	4,691,620	
その他固定資産合計	400,265,077	
固定資産合計		408,265,077
資産合計		421,953,801
II 負債の部		
1 流動負債		
前受会費		
平成17年度会費 10名分	116,000	
預り金		
職員に対する源泉所得税その他	103,030	
流動負債合計		219,030
2 固定負債		
退職給与引当金	4,691,620	

2 固定資産			
基本財産			
貸付信託	8,000,000		
基本財産合計	8,000,000		
その他の固定資産			
土地	73,642,125		
建物	153,078,045		
敷金	840,000		
什器備品	9,584,982		
長期計画準備金	30,046,305		
秩父宮記念基金	15,000,000		
終身会費積立金	19,782,000		
海外登山基金	93,600,000		
退職引当預金	4,691,620		
その他の固定資産合計	400,265,077		
固定資産合計		408,265,077	
資産合計			421,953,801
II 負債の部			
1 流動負債			
前受会費	116,000		
預り金	103,030		
流動負債合計		219,030	
2 固定負債			
退職給与引当金	4,691,620		
固定負債合計		4,691,620	
負債合計			4,910,650
III 正味財産の部			
正味財産			417,043,151
(うち基本金)			(8,000,000)
(うち当期正味財産減少額)			(4,553,428)
負債および正味財産合計			421,953,801

計算書類に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法について
基本財産の貸付信託は、総平均法による原価基準を採用している。
- (2) 固定資産の減価償却について
建物および什器備品の減価償却は行っていない。
- (3) 引当金の計上基準について
退職給与引当金は期末退職給与の要支給額の82%に相当する額を計上している。
- (4) 資金の範囲について
資金の範囲には、現金預金、未収会費、前受会費及び預り金を含めている。
なお、前期末および当期末残高は、下記3に記載のとおりである。

2. 基本財産の増減額および残高は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加	当期減少	当期末残高
貸付信託				
(中央三井信託銀行)	8,000,000	0	0	8,000,000
合計 (基本金)	8,000,000	0	0	8,000,000

3. 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期末残高	備 考
現 金 預 金	2,649,095	5,917,062	
そ の 他 預 金	339	0	
未 収 会 費	5,796,000	5,196,000	
合 計	8,445,434	11,113,062	
前 受 会 費	156,000	116,000	
預 り 金	102,820	103,030	
合 計	258,820	219,030	
次期繰越収支差額	8,186,614	10,894,032	

鳥 (カット原画)	墨絵	石井 鶴三	本 会
メールドグラス	エッチング	本 会	本 会
モンブラン	エッチング	松本アルプス山岳館	本 会
カンチェンジュンガ	エッチング	シュラーギトワハ	本 会
ユングフラウ	油	山里 寿男	伯耆国山岳美術館
洞沢より北穂高	水彩-6	山里 寿男	松本アルプス山岳館
初夏の槍ヶ岳	油-10	中村 清太郎	本 会
カンチェンジュンガ	バステル	矢崎 千代二	本 会
北穂高滝谷	油-25	足立 源一郎	本 会
或朝の槍ヶ岳	油-25	足立 源一郎	伯耆国山岳美術館
北穂高主峰	油-25	足立 源一郎	本 会
朝の槍ヶ岳	油-P8	足立 源一郎	本 会
タンボチエの僧院	水彩-4	清野 恒	松本アルプス山岳館
シェルパニの親子	水彩-4	清野 恒	松本アルプス山岳館
冬の山 (清太山)	墨絵	近藤 茂吉	松本アルプス山岳館
梓川秋色	油-12	後藤 三男	本 会
早朝の上高地山岳研究所	版画-8	松田 敏男	上高地山岳研究所
旧上高地山岳研究所	水彩-10	松田 敏男	上高地山岳研究所
焼岳秋趣	版画-8	鈴木 正俊	伯耆国山岳美術館
ナムチャバルワ峰暮色	油-10	神原 忠夫	伯耆国山岳美術館
白雪雪田	日本画	丸山 晩霞	本 会
上高地秋景	油-F20	後藤 三男	上高地山岳研究所
マチャブチャレ	油-20	武井 清	本 会
朝霧	水彩-8	越智 英夫	本 会
白樺の林	油-6	茨木 猪之吉	本 会
麓春	油-P50	倉員 辰雄	本 会
ヒマラヤダーズリンにて	油-F4	上野 春香	伯耆国山岳美術館
タムセルク	油-30	武井 清	本 会
安曇野の春	油-30	後藤 三男	松本アルプス山岳館
ヒマラヤの古都	油-30	藤江 幾太郎	本 会
アルバータ	油-6	レオン・アマン	本 会
ケルン	油-6	金光 義朗	上高地山岳研究所
山	油-6	辰沼 広吉	本 会
アルバータとビッケル	水彩	カナダ山岳会	本 会
題名不詳 24枚	油-10	茨木 猪之吉	本 会
題名不詳 8枚	油-6	茨木 猪之吉	本 会
題名不詳 12枚	水彩	茨木 猪之吉	本 会
スケッチブック	32冊	茨木 猪之吉	本 会
ロンブクよりエベレスト	版画	H. ソマベル	大町山岳博物館
白馬残照	版画	鈴木 正俊	本 会
穂高連峰	版画	小暮 真望	本 会
安曇野と常念岳	版画	小暮 真望	本 会
尾瀬と燧ヶ岳	版画	小暮 真望	本 会
谷川岳	版画	小暮 真望	本 会
シダゴ山 晩秋	版画	鈴木 正俊	本 会
檜洞丸山荘	版画	鈴木 正俊	本 会
世界の名山36峰ペン画集	ペン画	牧 潤一	本 会

(他の絵画、写真 省略)

2. 図 書

和 書	平成16年度受入冊数	114冊	蔵書計	11,173冊
洋 書	平成16年度受入冊数	25冊	蔵書計	3,760冊

3. フィルム・ビデオ

フィルム	15点	「マナスに立つ」 他
ビデオ	272点	「映像史 ヒマラヤへの道」 他

社団法人 日本山岳会 平成16年度の収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、および財産目録を監査し、正確妥当なことを認めます。

平成17年4月12日

社団法人 日 本 山 岳 会

監 事 内 田 博
監 事 一 力 英 夫

固定負債合計	4,691,620
負債合計	4,910,650
正味財産合計	417,043,151

(注) 1 棚卸資産内訳

種 類	摘 要	金 額
刊 行 物	「山岳」総索引、「山岳」覆刻版 等	961,756
服飾品、その他	クラブタイ、タイ止 等	1,613,906
合 計		2,575,662

(注) 2 その他固定資産内訳

1. 建物および土地

A. 事務所および土地			
場所	東京都千代田区四番町5番4号		
構造	鉄筋コンクリート造、陸屋根、地下1階付5階建		
(事務所)	区分所有建物1階部分	103.32㎡	
宅地持分	1,124.56㎡×339/10,000		
	=38.122584㎡		
(図書室)	区分所有建物1階部分	55.22㎡	
宅地持分	1,124.56㎡×176/10,000		
	=19.792256㎡		
計	158.54㎡ 宅地持分	57.914840㎡	
(201号室)	区分所有建物2階部分	74.68㎡	
宅地持分	1,124.56㎡×486/20,000		
	=27.326808㎡		
計	233.32㎡ 宅地持分	85.241648㎡	108,720,170
B. 上高地山岳研究所			
場所	長野県南安曇郡安曇村4469番地1		
構造	木造2階建地下1階 (一部コンクリート造)		
1棟	274.09㎡		118,000,000
合 計			226,720,170

2. 什器備品

品 名	取得年月日	取得価格	所 在
書庫内移動書架一式 コンパックル	S53.02.10	1,500,000	図書室
閲覧用テーブル (木製2台)	53.09.28	250,000	図書室
ライティングビューロー (木製)	54.06.23	280,300	事務所
フィルム収納キャビネット (スチール製)	56.08.08	254,000	事務所
書棚 (木製2段)	56.12.22	500,000	図書室
16mm 映写機 16-CL(MO)	61.05.13	156,000	事務所
木製書架ガラス戸付 (2台)	62.09.24	700,000	図書室
シャープ液晶ビジョナー式	H02.07.19	587,932	事務所
世界対応VTR 001 NWV	04.05.11	250,000	事務所
小型気象ファクシミリ JAX-9	04.10.19	320,000	事務所
ナショナル冷凍冷蔵庫 NR-041VP2-H	05.03.20	250,000	山 研
ナショナル29インチテレビ TH-29VS35	05.03.20	280,000	山 研
ナショナルBS付ビデオ HV-BS50S	05.03.20	250,000	山 研
ミニ水力発電装置	11.11.30	3,816,750	山 研
シャープノートパソコン PC-MJ700R	13.02.28	190,000	事務所
合 計		9,584,982	

財産目録記載外のその他物品リスト (主として受贈品)

1. 絵 画

題 名	種類・号数	作 者 名	掲載・保管場所
白馬岳	油-A50	中村 清太郎	大町山岳博物館
富士山麓	油-A25	茨木 猪之吉	河口湖町立美術館
田代池の白樺	油変形-6	中村 清太郎	本 会
群狼	墨絵	石井 鶴三	本 会
伊豆半島	油-10	茨木 猪之吉	松本アルプス山岳館
針の木峠より	油-10	茨木 猪之吉	本 会
徳本峠から穂高連峰	墨絵	石田 吟松	松本アルプス山岳館
初冬の両神山	油-10	茨木 猪之吉	本 会

7月	全国山岳遭難対策協議会 (指導)	福島県
7月	講演会「気象の長期予報はどのようにして決められるか」(科学)	本会
7月	JAC加盟大学山岳部員前期納会 (学生部)	
7月	講演会「登山の救急医療ハンドブック」出版記念 (医療)	
8月26日	北海道ブロック記念式典 (北海道支部)	札幌市
9月7日	首都圏会員懇親会 (総務)	本会
9月18~19日	オータムコンサート (山研)	上高地
9月16~19日	海外登山 (事業)	韓国 雪岳山
9月17日	中国ブロック記念集会 (山陰、広島支部)	広島市
9月17日	中部日本ブロック記念式典 (越後、信濃、山梨、静岡支部)	関川村
9月22日	登山報告会、講演会 (青年部)	
9月	第14回山を語る (図書)	本会
9月	講演会 (海外)	
9月	小川山集会 (学生部)	小川山
9月	自然観察会 (自然保護)	群馬県上野村
10月1日	新入会員オリエンテーション (総務)	本会
10月15日	支部長会議 (総務)	新高輪プリンスホテル
10月15日	創立100周年記念総会式典 (総務)	〃
10月16日	創立100周年記念総会式典記念山行 (事業)	景信山・高尾山
10月22~23日	紅葉山行 (事業)	猿投の森
10月22~13日	虹芝寮集会 (青年部)	谷川岳
10月29日	東海ブロック記念式典 (東海支部)	名古屋市
10月	第9回全国山岳博物館等連絡会議 (資料・映像)	
10月	連続講演会 (第5回) (資料・映像)	東京体育館
11月5日	関西ブロック記念式典 (関西支部)	高野山
11月6日	山研閉所 (山研)	上高地
11月	第37回山岳図書を語る夕べ (図書)	本会
11月	山岳映画会 (資料・映像)	本会
11月	公開セミナー「山岳用通信技術の進歩と現状」(科学)	
11月	マラソン大会 (学生部)	皇居外苑
12月22日	登山報告会、講演会 (青年部)	
12月30~1月3日	山研保守状況チェックの為の年末年始開所 (山研)	上高地
1月7~9日	スキー懇親山行 (事業)	
1月21~22日	救助訓練 (青年部)	
1月	冬山報告会 (学生部)	
1月	講演会「登山と救急蘇生」(医療)	
1月	シンポジウム「これからのヒマラヤ登山を考える」(事業)	東京体育館
2月4日	同好会連絡会議 (総務)	本会
2月18~19日	支部事務局担当者会議 (総務)	グリーンホテル
2月	第34回山岳史懇談会 (図書)	本会
2月	冬山技術講習会 (指導)	
2月	講演会 (海外)	
2月	講演会「マッキンリー気象観測のその後」(科学)	本会
2月	アイスクライミング講習会 (学生部)	八ヶ岳
3月	大学山岳部会議と講演会 (指導)	
3月	JAC加盟大学山岳部新人勧誘対策会 (学生部)	
3月	自然観察会 (自然保護)	神奈川・南原生林

2. 登山施設の運用、その他登山のための適切な事業

- * 上高地山岳研究所の運用
- * 受入れ資料保管
- * 各博物館、美術館との提携強化
- * 海外遠征の記録、会合、行事等の記録、フィルムのデジタル化による保存

3. 山岳遭難の予防とその対策に関する企画及び指導

- * 7月 全国山岳遭難対策協議会への出席 (滋賀県)
- * 通年 日山協・芳山・都岳連との合同調査活動

4. 自然保護活動の推進

- * 環境行政等への意見書、政策提言の発信
- * 自然保護委員会による自然保護知識啓発のための自然観察山行

監事監査報告

平成17年4月12日に行った平成16年度 (平成16年4月1日~平成17年3月31日) における会計 (創立100周年記念事業特別会計を含む。) の監査ならびに期中の業務監査の結果を、次のとおり報告する。

記

会計監査については、帳簿ならびに関係書類の閲覧等、必要と思われる手続きを用いて計算書類の正確性を検討した。
業務監査については、理事会等に出席し、業務執行の妥当性を検討した。

監査意見は次の通り。

- (1) 現金については、監査日当日現在の残高と、帳簿の金額は一致し、正しく出納されているものと認める。
- (2) 収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録は、本会の収支状況および財政状態を正しく示しているものと認める。
- (3) 事業報告の内容は、真実であると認める。
- (4) 理事の職務執行に関する不正の行為または法令、定款に違反する重大な事実はないと認める。
- (5) 本会事務局を更に充実する必要があると考える。

以上

(社)日本山岳会 平成17年度事業計画

2005年4月1日~2006年3月31日

1. 登山の指導と奨励に必要な集会、研修会、講演会、展覧会、及びシンポジウムの開催

4月9~10日	自然保護全国集会 (自然保護)	東京・高尾
4月14日	マナスル遠征登山壮行会 (事業)	新宿中村屋
4月15日	マナスル遠征2005年登山隊出発 (事業)	
4月22日	連続講演会 (第4回) 村山雅美 (資料・映像)	東京体育館
4月30日	山研閉所 (山研)	上高地
4月	学生部総会 (学生)	本会
5月14~15日	救助訓練 (青年部)	
5月20日	支部長懇談会 (総務)	弘済会館
5月21日	支部長会議 (総務)	〃
5月21日	通常総会 (総務)	〃
5月21~22日	第25回日本登山医療シンポジウム (医療)	国立大隈少年自然の家
5月27日	登山報告会、講演会 (青年部)	
5月28日	東北ブロック記念式典 (青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島支部)	猪苗代湖
5月	分水嶺踏査、科学委員会担当区域 (科学)	田代林道~安が森峠
5月	JAC加盟大学山岳部新入部員歓迎会 (学生部)	
6月4~5日	新入会員のための徳本峠越えとウエストン祭 (山研)	上高地
6月11日	京岐北陸ブロック記念式典 (京都、岐阜、福井、石川、富山支部)	福井市
6月22~26日	若葉山行 (事業)	青森白神
6月25日	白神山地植樹祭	白神山地
6月	講演会 (海外)	
6月	探索山行「菅平高原の地形と植生の特徴を探る」(科学)	四阿山
6月	JAC加盟大学山岳部員沢登り集会 (学生部)	
7月16日	九州ブロック記念式典 (福岡、北九州、東九州、熊本、宮崎支部)	えびの高原
7月16~18日	夏山山行 (事業)	鳥海山
7月17日	同好会連絡会議 (総務)	本会
7月22日	シンポジウム「ヒマラヤ登山隊の組織と果たした役割」(事業)	東京体育館
7月28日	登山報告会、講演会 (青年部)	本会
7月	山岳映画会 (資料・映像)	〃

7 特定預金取崩収入	10,000,000	10,000,000	0	(注)1
当期収入合計 (A)	90,585,000	92,045,000	-1,460,000	
前期繰越収支差額	10,894,032	8,186,614	2,707,418	
収入合計 (B)	101,479,032	100,231,614	1,247,418	

(注) 1 「長期計画準備金」預金取崩し ￥10,000,000

科 目	平成16年度予算額	前年度予算額	増 減	備考
Ⅱ 支出の部				
1 事業費				
出版費	10,900,000	11,900,000	-1,000,000	
図書管理費	400,000	550,000	-150,000	
調査研究費	1,860,000	2,648,000	-788,000	
指導費	1,400,000	2,070,000	-670,000	
支部関係費	12,000,000	12,000,000	0	
海外諸関係費	350,000	600,000	-250,000	
山岳研究所運営費	3,000,000	4,710,000	-1,710,000	
山岳研究所管理費	2,650,000	1,787,000	863,000	
ミニ水力発電運営費	200,000	200,000	0	
海外登山補助費	1,600,000	1,600,000	0	
その他事業費	19,850,000	19,850,000	0	(注)1
印刷・製本費	400,000	2,300,000	-1,900,000	
刊行物発送費	5,000,000	5,300,000	-300,000	
事業費計	59,610,000	65,515,000	-5,905,000	
2 管理費				
給料手当	13,000,000	12,400,000	600,000	
文具消耗品費	450,000	450,000	0	
印刷製本費	1,100,000	1,100,000	0	
旅費交通費	800,000	800,000	0	
通信運搬費	1,200,000	1,200,000	0	
火災保険料	340,000	340,000	0	
修繕費	100,000	100,000	0	
租税公課	648,200	648,200	0	
光熱水料費	800,000	800,000	0	
電話料	500,000	500,000	0	
会議費	180,000	180,000	0	
什器備品費	100,000	100,000	0	
振替手数料	800,000	800,000	0	
福利厚生費	405,000	300,000	105,000	
事務所管理費	1,640,000	1,196,680	443,320	
その他管理費	2,800,000	2,800,000	0	
負担金	80,000	80,000	0	
賃借料	3,430,000	5,700,000	-2,270,000	
雑費	900,000	900,000	0	
管理費計	29,273,200	30,394,880	-1,121,680	
3 固定資産取得支出				
什器備品購入支出	0	0	0	
固定資産取得支出計	0	0	0	
4 特定預金支出				
長期計画積立金支出	0	0	0	
秩父宮記念賞基金支出	1,000,000	1,000,000	0	
海外登山基金支出	0	0	0	
終身会費積立金支出	0	0	0	
退職給付引当金支出	0	0	0	
特定預金支出計	1,000,000	1,000,000	0	
5 予備費				
予備費	1,500,000	1,500,000	0	
当期支出合計 (C)	91,383,200	98,409,880	-7,026,680	
当期収支差額 (A)-(C)	-798,200	-6,364,880	5,566,680	
次期繰越収支差額 (B)-(C)	10,095,832	1,821,734	8,274,098	

(注) 1 「創立100周年記念事業特別会計」に ￥10,000,000 支出

- * 自然保護委員会による「高尾の森づくり」
- * 白神山地育林事業
- * 猿投の森づくり
- * 自然保護委員会会報「木の目草の芽」隔月刊行

5. 機関誌等の発行

- * 山岳第100号 (2005年) の発行
- * 会報719号～730号の発行
- * インターネット・ホームページの更新
- * 海外向英文誌「Japanese Alpine News」発行
- * 青年部会報「きりぎりす」発行
- * 医療委員会「山の救急医療ハンドブック」発行

6. 国内及び外国山岳団体との情報交換

- * 国内関係団体 (日本山岳協会・東京都山岳連盟・日本ネパール協会・日本ヒマラヤ協会・H A T-J・その他) との連絡
- * 海外登山団体との機関誌の交換及び情報誌の購入

7. 海外登山等

- * 4月15日～6月1日 マナスル登山隊2005
- * 7月13日～8月17日 第8次インドヒマラヤ登山隊2005 (東海支部)
- * 9月3日～9月19日 礼那日字峰 (ジャナリツ峰) 登山隊 (福井支部)
- * 9月4日～10月16日 ギャジ・カン峰登山隊 (富山支部)

8. 百周年記念事業の計画推進

- * 百年史の編集・発行 * 総合式典、ブロック式典の実施
- * 「新日本山岳誌」の編集・発行 * 所蔵山岳図書、絵画展
- * 中央分水嶺踏査の完遂 * 医療ハンドブックの刊行
- * 海外登山 * 各種フォーラム、シンポジウムの開催

9. その他目的を達成するために必要な事業

- * 山岳図書の整備
- * 山研ミニ水力発電装置稼働運営
- * 海外登山基金による助成
- * 第8回秩父宮記念山岳賞の授与
- * その他

収 支 予 算 書

平成17年4月1日から平成18年3月31日まで

科 目	平成17年度予算額	前年度予算額	増 減	備考
I 収入の部				
1 基本財産運用収入				
基本財産利息収入	5,000	5,000	0	
2 会費・入会金収入				
入会金収入	3,600,000	4,000,000	-400,000	
通常会費収入	65,500,000	67,000,000	-1,500,000	
終身会費収入	800,000	360,000	440,000	
会費・入会金収入計	69,900,000	71,360,000	-1,460,000	
3 事業収入				
広告料収入	1,600,000	1,600,000	0	
印税収入	10,000	10,000	0	
刊行物売上収入	200,000	200,000	0	
山研使用料収入	3,500,000	3,500,000	0	
その他事業収入	4,500,000	4,500,000	0	
事業収入計	9,810,000	9,810,000	0	
4 補助金等収入				
補助金収入	0	0	0	
5 寄付金収入				
寄付金収入	0	0	0	
6 雑収入				
受取利息	70,000	70,000	0	
雑収入	800,000	800,000	0	
雑収入計	870,000	870,000	0	

100周年記念事業

会員並びに有志募金の御礼とご報告(2)

募金事業委員会

1. 会員募金について

既に約2100名の方々に9千円の募金をいただいております、次号の会報よりお名前を掲載させていただきます。6千円をお寄せいただいた方が約500名、3千円の方が約650名おられます。残額をお納め下さいますようお願い致します。振込用紙は事務局にお申し付け下さい。合計で約2400万円となりました。

2. 有志募金について

約270名の方から760万円余りの募金をお寄せいただきました。先月号に引き続き、お名前を掲載しお礼とさせていただきます。

3. 大学募金について

東西の各大学より約200万円のご寄付をいただきました。大学名を掲載しお礼とさせていただきます。

4. 企業募金について

当会創立100周年記念の趣旨にご賛同いただき、読売新聞社からの1千万円をはじめとして、多くの企業より合計約1700万円のご寄付をいただいております。企業名を掲

載しお礼とさせていただきます。

〈大学募金〉(15校)

日本大学、早稲田大学、神戸大学、学習院大学、慶應義塾大学、大阪大学、京都大学、同志社大学、東京大学、東京農業大学、一橋大学、立教大学、千葉大学、芝浦工業大学、東京女子大学

〈企業募金〉(45社)

(株)読売新聞東京本社、(財)イオン環境財団、京王電鉄(株)、(株)エイジス、電源開発(株)、住友林業(株)、セイコーエプソン(株)、新日本プロレスリング(株)、(合)銀座白十字、(株)技報堂、山科精器(株)、吉村建設工業(株)、山崎金属(株)、(株)荏安商店、(株)平安閣、あおい商事(株)、(株)宮本設計事務所、村中建設(株)、(株)吟水園、緑新造園(株)、(株)根本造園、(株)岡野造園、種屋造園興業(株)、(株)アカネグリーン、藤東造園建設(株)、(有)グリーンアート、(有)空園、東京緑建(株)、(株)大場造園、槍ヶ岳山荘、谷崎工業(株)、西田工業(株)、上屋敷工業(株)、アキラ(株)、(株)関組、サカイオーベックス(株)、(株)菊池建設、(有)西糸屋、(株)

ビケン工業、銀扇福井(株)、神楽酒造(株)、(株)ナガトウ建設、大山測地設計(株)、(合)愛文社印刷所、曾我園科医院

〈有志募金〉(敬称略、会員番号順、4月末現在)

4月末現在)

10万円以上 (1名) 山本晃弘

5万円以上 (2名) 村井龍一、増山茂

3万円以上 (1名) 西沢健一

1万円以上 (158名)

堀田弥一、三日月直之、太田敬、富田記一、木下是雄、村上勝太郎、牧野衛、渡辺千代蔵、高橋一雄、永田好行、青柳安昭、太田晃介、大島輝夫、川上隆、石坂昭二郎、坂井真、阿部克雄、伊藤敏、渡辺敏夫、村上昭三、新井信太郎、山口節子、松本征夫、森元一、穴田雪江、山本久子、小森恵己子、星譲、大橋晋、中沢仁、松永敏郎、織田沢美知子、荒木正弘、佐藤兼治、中嶋啓、飯島正敏、守山進太郎、浅利欣吉、伏見紀子、永島賢司、清瀬祐司、早田道治、中川武、菊地文雄、高橋聡、関孝治、田鎖寿、下河辺史郎、斎藤健一、錦織英夫、田部井淳子、原謙一、津田文夫、中島忠、塚原賢勝、森宏子、梶正彦、長塩憲司、長谷川良典、西村一夫、若林妙子、浜口欣一、吉田元、横田明男、遠藤光男、横山誠之、平井拓

夫、大森久雄、中谷充、豊島義明、

松家晋、岡澤祐吉、福田光子、松井

辰彌、菅野弘章、村木富士、本郷三

好、山岸和夫、織田伸治、佐藤和志、

坂本正智、三上博民、網藏卓爾、芳

賀成明、橋本龍太郎、植田佳徳、小

林直人、堀井昌子、石浦邦夫、西原

幸子、田中賢治、鈴木松三、森武昭、

竹内哲夫、大関保、岡田貞夫、田中

聡、高橋桓志、松原尚之、袴田通孝、

深川安明、鈴木捷夫、高木康雄、近

藤晋、新村貞男、佐々木毅彦、平山

暁子、長谷川啓子、松村進、石塚克

美、村中征也、戸村健児、加藤恒彦、

佐藤弘、永森邦雄、三井吉由江、松

澤フサ子、小林康浩、鰐坂青青、古

田寛昭、小清水敏昌、平井喜久枝、

古田和彦、木本義雄、木本慶太郎、

木本礼子、辻斉、福岡孝昭、辻橋明

子、芳賀淳子、谷村正則、國見ゆみ

子、橋本久美子、岩井胤夫、西山進

久義慧子、小野隆央、貴島紀子、松

下征文、堀江召浩、明井克子、湯沢

幸一、竹中彰、日高佐智代、八木沼

陽子、市川義行、青木司、小林昌通

本郷潤一、南川陸夫、恩田真砂美、

醍醐準一、渡邊昌嗣、高石道明、津

田麗子、玉田眞一、平野嘉彦、JA

C03同期会、井ヶ田博一

以上

報告

6月

Report

日本山岳会の各委員会
同好会の活動報告です

総務委員会

支部長会議を開催

目立った分水嶺への発言

総会に先だって、10時30分より、支部長会議が開催された。福島支部をのぞく全支部長と平山会長、平林・橋本両副会長、理事4名が出席し、藤本理事が司会を行った。冒頭、平山会長から挨拶があり、そのなかで、支部長会議の回数を増やし、支部開催も考えたらどうか、という提案があった。

次に藤本理事から、通常総会用資料についての説明、新しい支部長の自己紹介があり、つづいて各支部からの報告が行われた。

報告は、中央分水嶺踏査に関する発言が目立ち、1年間の山行のほとんどを分水嶺踏査にあてた支部、1千^キの踏査にガソリン代だ

けでも60万円かかったという支部、支部員が減ったという支部もあった。反対に、分水嶺踏査で盛り上がり、結束したという報告もあった。

本部からは、中央分水嶺の踏査状況、100周年記念事業の進捗状況、100周年記念事業の収支や募金についての報告があり、最後にブロック記念式典の進捗状況が担当支部から報告された。

(永田 弘太郎)

ミニ水力発電小委員会

新たな研究テーマへの取り組み

上高地山岳研究所に併設しているミニ水力発電実験施設に対し、環境省をはじめとする関係諸官庁より5年間の延長使用が認められ

たことから、これまで構築してきた実験設備、蓄積してきた基礎データならびに運用のノウハウをもとに実用化に向けた新たな研究テーマに取り組みすることとした。活動の近況と研究テーマの概要について紹介する。

近況報告

4月29日、30日の山研開所作業に合わせ山研運営委員ならびに共同研究先である神奈川工科大学の学生の応援を得て冬季中に撤去していた取水設備の設置、発電設備の接続・調整を実施した。例年に比べ残雪が少なかったため、導水管の掘り出しなど時間と労力を要する作業が軽減された分、余裕のある作業となった。昨年までは、サージタンク(導水管の途中に入る水圧調整タンク)をオーバーフローした水はその周囲に排水していたが、今回からはサージタンクを一新して、余剰水も沢へ戻すなど、より環境に優しいシステムとなるように配慮した点が新たな特長となっている。

研究テーマ

ミニ水力発電の実用化には、発電設備の運転に際し出来るだけ管理者(山小屋の従業員など)の手

「シェルパのルーツ・チベットからネパール国境を歩いて越えて」

世界第6の後方、チョー・オユー・峰、そのBC近くに位置するのがナンパ・ラ(5716m)です。シェルパ族がかつてチベットから移住してきたルートの一つです。

◎チョー・オユーBCとナンパ・ラ(峰)越え
9月25日～10月13日 ¥780,000

Wec

株式会社ウェック・トレック
国土交通大臣登録旅行業 1662号
〒105-0003 東京都港区西新橋3-24-8 山内ビル4階
電話 03-3437-8848 mail info@everest.co.jp

を煩わせないこと、すなわち自動運転化が実用化の鍵となる。すなわち、電力を必要とする照明などの装置(負荷)に対し、発電設備からの電力供給を自動的に制御するシステムが必要となる。現状のシステムでは、負荷が変動すると、発電機の回転数の変動となって表れ、極端な回転数の変動は発電機にダメージを与える恐れがある。したがって、回転数をほぼ一定に保つように、管理者の手によって負荷制御を行う必要があるため、使用できる負荷は照明などの一部

学生部 合同新人歓迎会と 各大学の新人状況

5月16日、17日、奥多摩の氷川
キャンプ場にて学生部に集まる諸

に固定せざるを得なかった。今回
取り組むテーマは、これら手動で
行われている負荷制御の自動化を
実現するシステムの開発と実環境
における検証を目的としている。
具体的には山研で使用している負
荷の種類を重要度により3つのグ
ループに分け、バッテリーの充電
状態や負荷の電力使用状況に応じ
て重要度の低いものから自動的に
接続の on・off が行えるよう
な仕組みを構築し、これをマイコ
ンで制御しようとするものである。
これが実現すれば、現状75〜80%
に抑えている発電機の出力を定格
(1^{1/2}程度)まで上げることが可能
となる。また、山研利用者向けの
冷蔵庫をはじめとして、いろい
ろな負荷へ電源供給範囲を広げる
ことが可能になるので、こういっ
た目に見える形で自然エネルギー
の有用性を訴えていく予定である。

(柴山 信夫)

大学合同新人歓迎キャンプを催し
た。今年度は部員数がゼロになる
部もでてくるということで、新人
勧誘には「横のつながり」を大切
に、大学の垣根を越えた横断的な
新人勧誘をしている。結果として、
大学によって豊作不作はあったが、
学生部として次代を担う人材は、
今年も少人数ではあるが、入って
きてくれたと思う。

奥多摩の新人歓迎会では早稲田
大学3年の福島、古関が中心とな
り一貫して事前準備を引き受け、
また方々に新歓期間中には手を回
していただいた。

残念ながらいまだ入部希望者ゼ
ロの部もあるが、新たに推薦入学制
度を活用して意欲的な山岳部を形
成している部、フリークライミン
グと融合して新しい形を模索する
部など、いまや部の方向性はさまざ
まである。それでも、山登りをやり
たいという新生入生に対しては門戸
を広く、昨年のムスタン遠征のよう
に、他大学の仲間にも自分の思
想を共感できる仲間を見つけても
らえれば幸いと思う。

実際に名目上は「新生入生」た
ちも、意欲に燃える上級生たちと
の更なる交流の場にもなれたので
はないかと思う。

昨今の部員減少の傾向を、否定
的な見方で捉えるばかりでなく、
伝統と現行を複合化させた新しい
登山の思想を、今後すべての部員
が積極的に持てるようになれば
と考えている。そのきっかけ作り
としての歓迎交流会は、ひいては
普段の学生部集会においても自然
と大学山岳部全体の底上げとなる
だろうと信じている。

今後とも山岳部がどうあるべき
か、どうなりたいかを振り返る場
の雰囲気、学生部を通して醸成
していければと思う。

今年度は加藤(立教4)、古関光
浩(早稲田3)、澤井京太(東京理
科3)で学生部を運営していきま
すのでよろしく願います。

【新人歓迎キャンプ参加大学】立
教、早稲田、拓殖、明治学院、千
葉、上智、専修、青山学院、東京
理科

(立教大学 加藤 健一郎)

創立100周年記念事業にご協力を

日本山岳会創立100周年記念

河口慧海の足跡をたずねて

A) 国境の峠探訪とカイルス1周トレッキング 33日間
9/12(月)~10/14(金) 785,000円

B) 秘境ムスタン・トレッキング 22日間
10/18(火)~11/8(火) 645,000円



国土交通大臣登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員 日本山岳会
アルパインツアーサービス株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋1-12-1 西新橋1森ビル2F ☎03-3503-1911
大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557
e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

◆メール投稿に関するお願い◆

- メールでの投稿歓迎します。
誤字脱字などの削減、会報編集作業の能率化の
ため、メール投稿へのご協力をお願いします。
- 投稿の際には、jac-kaiho@jac.or.jp 宛にお送り
ください。
- 写真付きの原稿も歓迎します。
デジカメでは、画質の設定を印刷用にしてご
撮影ください。ホームページ用に設定された
写真などでは、画像の粒子が粗く使えない場
合があります。

東 西 南 北



オオヒラウスユキソウ

イラスト・倉岡啓吉

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。(紙面に限りがありますので、1点につき1000字程度をお願いします)

ルームの図書室は資料の宝庫

長田 義則

会報716号の関塚氏の「充実した図書室は誇り」に同感する。

地方の会員には、その図書室が遠い距離にあるだけ、利用の面において首都圏の会員が羨ましい。

手元の山書資料からの調べも、すぐに行き詰ってはルームの図書館の厄介になるから、いつも資料の宝庫と考えている。

地方の会員は、ふらりとルームに通えるものでもなし、入会この方ルームの所在や図書室を利用しない会員も多いに違いはない。せいぜい晩餐会の途次、どうせのことならと神保町界隈をのぞき見して、

立ち寄ったルームでの調べも、時間を気にそそくさと切り上げる。

山書資料については、公立図書館を利用して借りもする。所蔵のないのが殆どだが、今では互いに連携され、全国的に検索して取り寄せてくれるのは嬉しい。

明治期の本も借り出しできるが、こと山書に限っては、何と言ってもルームの充実した図書室にはかなわない。

その図書室も多くの会員に利用される事によって、ルームもより身近となり、会員の帰属意識も高められ、更に図書室の充実も期待できると思う。

利用の手始めに、所蔵図書の新しい目録も欲しい。コピー資料の頒布で十分である。

かつて虎ノ門にあった本会図書室兼ルームは、その充実した内容

と共に一切灰燼に帰してから、先人が3年にしてようやくルームの再建に乗り出している。

約15坪の山小屋風平家建、図書室とクラブルームを兼ね、建築費30万円、図書購入費20万円の計50万円の資金募集は、相当の困難を予想して、会員には万難を排しての呼びかけをしている(昭和23年5月・会報141号)。

先人たちの気概の伝わる「ルームの原点の図書室」は今、クラブ創立100年の積年のつながりの所産として、関塚氏の誇りとする一つに間違いない。

残雪期の中国側の長白山

鈴木 正規

白頭山は朝鮮半島の付け根に当たる長白山脈の最高峰で、中国では長白山と呼び、海拔2750メートルの中国東北部の国境線上の最高峰でもある。今から約1千万年前に大噴火をおこしたアビイテ式の火山で、山頂には天池と呼ばれる周囲15キロの火山湖が満々と水を蓄えている。

頂上の西半分は中国吉林省、東

半分は北朝鮮に属して、天池の湖水は伏流となって東西に流れて西は中国との国境を経て鴨緑江に、東はやはり中国との国境線上を豆満江へと流れている。

冬期は、シベリアの寒気団の絶好の攻撃を受け、12月頃から3月までは気温はマイナス37度とも言われている。厳冬のヒマラヤ並みの厳しく、すさまじい気象である。

今回の私たちの長白山登山計画は山好きな旅行社のツアー商品企画担当者の集まりで、長白山をなんとかツアー商品にならないかと討議されたのが最初、その後、何度となく各社で登山のための研究資料等が集められたが、なにぶんにも社会主義国家ゆえに、古い文献とか地図などが乏しいのが障害となった。特に地図にいたっては軍事上の秘密で市場への販売は皆無の現状で、一番の悩みだった。

そこで一応、各社のツアーメンバーが冬期のオフをめざして現地調査を実行しようとした。

出発は3月8日、中国側の延吉に入って現地での聞き取り調査を終えて、13日には安図までの舗装道路を突っ走って白河二道に着いたのが午前7時頃、朝食もそこそ



左端のピークが長白山(2741m)

ここに、二河泥無に到着した。積雪は40センチ、ここまでは何回となく車の後押しをしながらの行進、ここ二河泥無にはただ一つ登山と観光を目的にした「長白山国際ホテル」があり、冬期は閉鎖されているが、特に事前に手配をしてあったので管理人が開けてくれた。ホテルの目の小さな建物が中国軍のチェックポスト、全員が入山届けと入山料を支払うためパスポートの提示があったが、問題なく通過ができた。ここからは登山のために手配してある、3台のスノーモービルに分乗して長白瀑布を目指して行ける所まで行こうと進出した。しかし、積雪は約2メートル、雪上がアイスパーンになっているため、滝を目指して登っていったものの、

20分もしないうちに凍りの張りが強烈になりモービルが谷側へ滑り込んだので、3台共危険と悟り、アイゼン登高となる。

滝の高さは40メートル、ツララ状に凍っていて、正面から見るとただの水壁、頂上の天池までアイゼン登高が快適に効くので、急登を4、5回休んで、午後4時5分に天池に着いた。天池の気温は、マイナス15度の晴天である。火口湖は湖面だけが完全に凍結していて、真白な雪でフタをしたようである。

左には長白山2741メートル、正面には最高峰の將軍峰2750メートルがはつきりとそびえていたのが印象的だった。

還暦を過ぎたら

山を歩きたくなった

熊谷 とも子

毎月送られて来る「山」の中で100周年記念の文字ばかりが目に入ります。そんな時、4月号の中村テルさんの記事をなつかしく読みました。婦人部を創立したあの聖橋の山岳会の古いルームでの事が昨日の事のように想い出され

ます。昭和20年代から30年代にかけての山岳会は、私にとって貴重でした。あれから50年余り、ずいぶん山を歩きました。

今、私は山岳会の先輩方への御恩返しもあり、同年代の方に月に1度の山歩きを楽しんでいたたいています。

きっかけは10年前の小学校の同窓会でした。定年で仕事から解放され、孫からも手が放れ自由になった時「山を歩いてみたいなあ!」「だけど今頃からどうして行ったらいいのだろう?」という声が多くあり、そんな同級生の声にそれではと発足したのが月に1度の山歩きでした。

古希の年に、スキーは始めてという方ばかりで雪を楽しんだり、日本最北端の礼文・利尻岳の素朴な美しさに感銘したり、宮城蔵王の樹氷に一同大感激したこともありました。そして、高い山、低い山、小さな里山でも楽しさの裏に山の恐さがいっぱいかくれていることも解って頂けたと思います。ふとしたきっかけから皆で始めた山歩きは、とうとう4月14日に100回目の山行となり、舞鶴山に登り、天童温泉で100回山行

記念を祝う事ができました。来年は喜寿を迎えますが、まだまだ歩きたい山、静かな山の温泉へと思いを募らせております。

ボカラ山岳博物館のこと

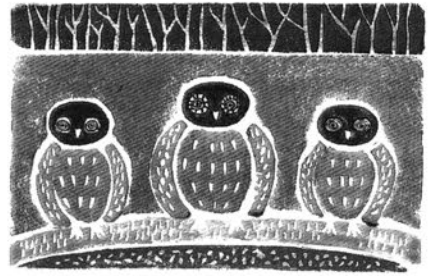
大森 弘一郎

ボカラ山岳博物館に1年ぶりに行きました。毎日のお客さんの数は外国人が30人から50人、ネパール人が200人から300人くらいで、民家風に作られたレストランも開業し、木も芝も育ち軌道にのっている様子に見えました。

今は、安藤氏に代わり竹花氏が面倒を見ています。展示は、基本的にはあまり増えていません。収蔵庫も準備されているとのことですが中身は無いそうです。要するに遠征隊が使用したものの現物のストックが無いということです。

そこで提案ですが、ヒマラヤから下山したとき、使用した装備や機材や記念の石などを博物館においてきてはいかがでしょうか。喜んで受け取ってくれて、展示もし、大切に保存してくれるはずですよ。以上提案いたします。

図書紹介



幸せを呼ぶ鳥 版画・奥野溪石

The Alpine Club・刊

『The Alpine Journal 2004』

グリーンランドで初登攀した雪壁上の写真が表紙を飾り、裏表紙にはベネズエラの岩山から宙吊りになって懸垂下降をする写真、ペー지를めくればアンナプルナIII峰の雪稜からの雄大な景観が目に入る。文中にも魅力的な写真が随所にあり思わず引き込まれページを進めてしまう。これがThe Alpine Clubの機関誌であり、世界の登山情報を集積した楽しく読ませる山岳情報誌だ。

巻頭では今回から編集責任者が交代したこと、写真が文章中に入ったので非常に読み良く、並みい

る山岳関係誌の中で内容でも突出していると誇らしげに記している。登攀、旅行、論点、随想、文芸、歴史、地域情報、書評などに分かれている。

「登攀」ではアンナプルナIII峰南西稜、チベットのアルプスなどの新ルート登攀や初登頂などが11点あり。また03年夏、異常気象のアルプスで岩雪崩による下山ルート崩壊とヘリ救出大作戦の実態などが興味深い。

「旅行」には中村保氏のイラワジ川源流の探索やカパディア氏の東部カラコルム、エリック・シプトンの息子ジョンによる父親の足跡を検証する山行などあり。

「論点」ではバルカン半島とカシミール紛争地帯の平和公園計画の早期実現を訴えている。

「随想」ではこれから50年後のK2、過密化のアルプスなど英国人の考え方の理解に役立つようだ。

また英国における各登山クラブの発展史はわが国の登山界を考える上でも参考になろう。

「文芸」では1985年アンデスの遭難事故を著したベストセラー本の映画化で著書と共に世界的に好評を博している映画、日本題名

「運命を分けたザイル」に関する2編、とくに遭難当事者が映画ロケのために現場を訪ねた時の心理状況など率直に述べている。

「歴史」では今まで恐らく邦文では見かけたことのない、アンデスの女性パイオニア達(1903年-50年)など6点あり。

「地域情報」には世界各地の03年の登山情報が70ページにわたり記され、登山界に価値ある最新情報を提供している。

その他、エヴェレスト基金の交付を受けた隊の遠征レポートが30余点あり。羨ましいことに、この基金は既に1400件の遠征を支援している。英国山岳会の会務報告の中に70年ぶりにUIAAに復帰したとある。
(南井 英弘)
424頁 Ernest Press 発行
22・50£

成蹊踏高会・編

『覆刻*記録・会報』

旧制成蹊高校旅行部と成蹊踏高会(同OB会)の『記録1号』(昭和2年)〜『同11号』(昭和11年)、『会報1号』(昭和7年)〜『同8号』(昭和22年)、『記録4号』との合併号を

踏高会の有志が覆刻した。

縦組、横組、謄写刷、活版刷と変遷していく。掲載された広告も時代を写している。

大正14年から始まる活動は、成瀬岩雄、中屋健式、三枝守維、高木正孝、渡辺兵力氏らの熱気とおびただしい山行日数には圧倒される。

虹芝寮建設計画が熱心に論じられ、昭和7年に完成後は、谷川岳東面の夏期、積雪期の登攀に打ち込んでいく。

大島亮吉、松方三郎氏らとの山行や北大山岳部と合同の十勝合宿があり、古き良き時代のおおらかさを感じさせる。

昭和22年の『会報8号』は、戦時中の不自由な登山を報告し、多くの戦死者と復員会員の消息を伝えて、虹芝寮再開への意欲が語られている。

『虹芝寮日記』も1986年に覆刻されており、併せ読むと谷川岳登山史の一端を知ることができるであろう。

なお、本書は特装本も刊行されている。
(松沢 節夫)

2004年9月 日本経済論社
発行 783頁 10000円

神戸大学東チベット学術登山隊・編

『神戸大学東チベット学術登山隊報告書』

神戸大学100周年記念事業
03年10月2日～11月17日

未知の地域を探索し未踏の山頂を極めることは、ひとつの文化活動である、とする登山隊は教授学生を含む9名で、中国チベット自治区東南部のカンリガルポ最高峰ルオニイ6805^{メートル}と、その周辺を目的として行動。

86年、ブータン国境付近の未踏峰クラーカンリ7554^{メートル}の初登頂後、成都まで学術調査旅行時に山群の入口である然鳥を通り思いを馳せ、次の目標と心に定めたが実現には17年を要した。

02年10月2日～21日、偵察隊3名がクレバス帯を抜け4650^{メートル}に達し地形を明らかにした。今回登山隊はC3、5830^{メートル}予定地で降雪のため撤退、登頂ルートの見込みがたらず課題を残したが全員無事でBC帰着、日程もほぼ消化した。

学術隊は別動で、教授学生を含む

む4名に中国側教授を加え5名が40日を費やし調査する。その結果、インド大陸がアジア大陸に衝突し、内部に2300^{メートル}の谷間、チベット高原ヒマラヤ山脈が上昇したということが解かった。東アジアの大河の奇妙な流れの方向の変化こそが変形の証拠と考えられ、GPSを用いたアジア東部の測量では運動は現在も起っている。八宿から昌都を経て成都に至る高度変化を図表した。恐竜と考えられる足跡が八宿の崖に残されている。地層の「産状」を観察した結果、断層活動の地表変形が見られた。

芒康・八宿・昌都・察雅56カ所で447個の岩石試料を採取する。白亜紀ジュラ紀岩石の古地磁気を測り大陸変形の様相を解明する。研究室内の仕事が始まる。

報告書はカラー3^{ページ}を含み内容は濃い。この山域に興味ある人には必読の書であろう。(三沢二三)

2004年3月 神戸大学山岳会発行 73^{ページ}

『山と私』

鈴木裕子・著

山登りに関しての自費出版(私家版)本は、これまで数多く出版されている。しかし、ホームビデオと同じく、友人や参加者間で見ればおもしろいが、他人が見てもおもしろいものではない。

本書についても同じ事が言えるが、幸い本文での秋田支部関連の記事が数多く掲載されており、関係者間においては一気に読みたくなるほどの一冊である。

本書は、著者が還暦と退職という人生最大の節目に出版するという計画を前もって、日頃の山行きを常に記録に留めていた努力があつてこそ纏めあげられたものであり、かつして、一夜にしてできあがつたものではないと思われる。また、入会後の秋田支部山行の大半の記録を網羅しており、支部の歴史の一部とみても決して過言ではない。

本書の見所は、他に「秋田県の上岳千メートル峰142座」の完

今年もさげんで会いましょう

どつぶりアラスカデナリ国立公園と北極圏
北米最北の街バロー&オーロラ

9/2発 10日間 598,000円(東京発着)

インカ古道ショートハイキングと
ナスカの地上絵&チチカカ湖

9/8発 11日間 548,000円(東京発着)

パキスタン・中国・カラコルムハイウェイ
大横断クンジュラプ峠越え

9/9発 11日間 328,000円(東京発着)

総合カタログ(無料)を下記までご請求下さい!

山旅専門旅行社 アミューストラベル株式会社

〒160-0022 東京都新宿区新宿2丁目6-4 KN新宿ビル11階

TEL:03(5919)1188 FAX:03(5919)1189

登(女性初)や「秋田県の上岳56座」完登など、登山界の未知なる山々をも位置図と共に紹介していることなど、秋田県の上岳界としても貴重な記録を綴っている。

また、家族のことや海外旅行なども併せて掲載されており、著者の自分史ともなっている異色の本でもあるが、何よりも、岳人としての最も大切な「山行歴」を年表に纏めて載せているのは、自分史作製の模範とすべきものであろう。

(佐々木 民秀)

2004年3月発行 B5版
294^{ページ} 非売品

Climbing & Medicine · 45

バイアグラが 高地肺水腫に効く？

志賀 尚子

急性高山病が重症化すると、呼吸困難となり、血痰を吐き、意識不明になって、ついには死に至ることがあります。それが高地肺水腫です。現在、ニフェジピンという薬（狭心症や高血圧の薬）が唯一効果のある治療薬とされていますが（注：一刻も早く高度を下げるのが最優先です！念のため）、最近国際的に注目されているのが、このバイアグラなのです。ちなみにこれは商品名で、薬剤名をクエン酸シルデナフィルといいます。1999年の発売開始以来、勃起不全の治療剤として脚光を浴びていますが、その薬理作用は、サイクリックGMPを分解する酵素であるホスホジエステラーゼタイプ5の活性を選択的に阻害する、というものです。

高所での低酸素環境に限らず、低酸素に曝されると、肺の血管が収縮し、肺動脈の圧が上昇して肺水腫が起こります。バイアグラがなぜ効くかという、肺の血管を拡

張する作用があるため、これにより肺の血流やガス交換が改善され、肺動脈圧も低下してきます。

最近の研究報告では、健康な男性12人（平均29歳）をバイアグラ内服群と偽薬内服群の2群に分けて「海拔レベルから1035mまで登り1日滞在後、ヘリで4350mに到達、6日間滞在し、この間バイアグラあるいは偽薬を連日服用した後、再び海拔レベルまで下降」というスケジュールで種々の検査を行ったところ、バイアグラ内服群では有意に高所での肺動脈圧の上昇が抑えられ、動脈血酸素飽和度（動脈血の酸素化のレベル）も偽薬群ほど低下せず、また通常の高所順化身体反応が障害されることもなかった、すなわち「バイアグラが高地肺水腫の治療薬として有望」とのことです。ただし、実際に高地肺水腫患者で使用して効果が認められた、という報告はまだないようです。

さらに「海拔レベルでの低酸素環境およびエヴェレストのベースキャンプにおいて安静時と運動時のデータを調べたところ、バイアグラ内服群では、偽薬群に比べ、肺動脈圧が低下、心拍出量が増加し、運動能力が高まった」という研究報告もあります。

まだまだその有効性および副作用による危険性は確立していませんが、今後のさらなる研究が期待されるようです。



ATLAS TREK

個人手配旅行から人気のトレックツアーやエクスペディションのアレンジまで。充実度が違う「旅」のプランニングをこころがけています。山旅などあらゆるジャンルを取り扱っています。お気軽にご連絡ください。

株式会社 アトラストレック
(国土交通大臣登録旅行業1167号)

東京/〒160-0008 東京都新宿区三栄町25 三栄ハウス202 TEL 03-3341-0030
大阪/〒540-0012 大阪市中央区谷町3-4-5 中央谷町ビル501号 TEL 06-6946-9111
名古屋/〒464-0807 名古屋区千代区東山通り5-113 オークラビル6F TEL 052-788-2422



山の自然学クラブからのお知らせ

NPO法人 山の自然学クラブでは、もっと地球環境問題に取り組むために、従来の講座や活動（富士育林、雷鳥保護、インタープリター等）に加えて、地球部会を作りました。関心のある方はお名前、住所を下記にお知らせください。 大森弘一郎

(FAX) 045-833-8505 ☐ zero@qb3.so-net.ne.jp

会務報告

4月理事会

日時 4月13日18時30分～21時30分
場所 日本山岳会会議室

〔出席者〕平山会長、芳賀、平林、橋本各副会長、藤本、今村、小川、朴元、大蔵、賛田、黒川、鈴木、野口、石田、篠崎、鳥居各理事、内田、一力各監事、宮崎、鰐坂、西村、小倉(董)、重廣各常任評議員
〔委任〕田村理事

【審議事項】

1 平成16年度事業報告について 藤本

別添資料により提案、一部追加訂正があり承認された。

2 平成16年度収支決算報告について 橋本

①収支決算書の特定預金支出のうち、秩父宮記念賞基金支出の予算額が100万円あるが、決算額は0であるがどうか。

●来期200万円にする等対策を講じる。

②減価償却等していないので実質資産は目減りしているのではないか。

●公益法人として規定を直さない

と変更できない。別途検討する。
③秩父宮記念基金、海外登山基金の援助金は現在のような低金利では経常経費でまかなわざるを得ない状況を承知してほしい。

(承認)

●決算はこの後、監事の監査を受け、持ちまわり理事会で承認する。
3 理事定数変更並びに委員会委員長設置について 藤本

別紙のとおり提案された。今回は理事を15名とし、各委員会に委員長を置くということを決定した。理事と委員長の役割分担を明文化することとした。

4 平成17、18年度理事、監事、評議員候補について 平山

4月8日に行われた拡大常務理事会(会長、副会長、常任評議員も出席)で候補者の素案が作成され、その後会長が3名を変更した案を理事会に提案した。

これに対して素案を変更したならば再度、拡大常務理事会に諮るべきであるという意見や、候補者を決めるのは理事会であるから、会長提案の案を審議すれば良いなどの意見が出され、活発な議論がなされた。最終的に会長提案を賛成9名、反対5名、白紙1名で可

決し、総会に推薦することとなった。

5 理事会議事録署名人について 文部科学省に提出する本案件議事録の署名人を今村千秋、鳥居和雄の両理事とする。(承認)

6 首都圏在住者の地方支部加入について 藤本

現在、首都圏以外に住む人で地方支部に入会している人に対して2500円/人の助成金が支部に支払われている。首都圏に居住する人で、地方支部に入会を希望する人がおり、地方支部もこれを受け入れる意向が強いので、これを認めた。

これに対して、以前は首都圏の会員と支部会員とは会費が異なっていたが、その後、全会員同一会費とし、支部の会員には助成金を出すことになった。現在、首都圏に住み支部に入りたいという人が、少なくとも今後多くなったときのことを考える必要がある、などの議論があったものの、原案通り決定した。なお本件については会報「山」に明記することとした。

7 自然保護活動指針(案)について 篠崎

日本山岳会の自然保護活動方針

として承認された。

【報告事項】

以下の件が担当者より報告され承認された。

1 会報「山」4月号の内容について 今村

トップ記事は「山での突然死を考える」講演会報告

2 100周年事業実行委員会事務推進について 藤本

各委員会のヒアリングを4月19日午後3時～5時に行う。又、今後の委員会の費用支出手続きは別紙のとおり実行されることとなった。

3 100周年記念事業に対する募金状況について 橋本

別紙のとおり収支があった。募金総額4458万円。さらなるお願いを致したい。

4 各支部総会への本部派遣者について 藤本

●4月16日 山陰支部 朴元理事

●4月17日 信濃支部 今村理事

●4月26日 山梨支部 藤本理事

●4月28日 岐阜支部 橋本副会長

●5月14日 東海支部 橋本副会長

5 支部長会議並びに総会招集について 藤本

5月21日午前11支部長会議、午後11総会を弘済会館で開催する。

6 東北ブロック式典

別紙のとおり締切日が4月末日と迫っているため、各自申込をしてほしい。

7 「山岳」記事等使用許可願

藤本

南アルプス市芦安山岳館

NHK

8 その他

①「山での突然死を考える」のDVDを作ったので希望者に配布する。

野口

②4月22日村山雅美氏の講演会を東京体育館で行う。ぜひ参加されたい。

③学生部新人が4月16日〜17日氷川でキャンプを行う。

④東海支部が中央分水嶺踏査を完了し、4月23日パーティーがある。

石田

ルーム日誌

3月

4日 総務委員会

5日 図書委員会 アルパインス

ケッチクラブ

6日 山岳地理クラブ JAC01

会 アルパインスキー

クラブ

7日 医療委員会 フォトビデオ

クラブ 緑爽会

8日 会長・副会長会議 臨時常

務理事会

11日 総務委員会 JAC01会ア

ルパインスキークラブ

12日 常務理事会 二火会 アル

パインスケッチクラブ

13日 理事会 休山会 山想倶楽

部

14日 青年部 学生部 山の自然

学研究会

16日 評議員会 山想倶楽部

資料・映像委員会

18日 山研委員会 100周年募

金委員会 九五会

19日 理事懇談会 三水会 つく

も会

21日 科学委員会 高尾の森実行

委員会

25日 自然保護委員会 100周

年式典委員会 山岳地理

クラブ

26日 100周年募金委員会(大

学山岳部関係) 100周

年フォーラム委員会 緑

爽会

27日 ゆきわり会 アルパインス

キークラブ

4月来室者603名

■会員異動(4月)

物故

田中久光 (2238) 04・10・2

中川恵資 (6921) 04・12・3

深江春代 (7108) 04・12・22

田高卓士 (6854) 05・4・7

串田和美 (13853) 05・4・9

戸来 彌 (10518) 05・4・10

福崎富明 (14020) 05・4・24

退会

山口 亮 (7338) 静岡

大西 久志 (9639)

吉田 恒子 (10233) 熊本

鈴木 康洋 (10273)

石川 弘 (10395)

燕昇司 實 (10708)

牧田 成子 (11344) 京都

広田 牧子 (11376)

山崎美佐子 (12151)

中平等新一 (12591) 東海

堀江喜久江 (12677)

柴田 俊子 (13071)

高橋 光雄 (13231) 北海道

徳安 武 (13391) 東海

木下 徳彦 (13548)

古賀 幸伸 (13629) 福岡

▲山の本の本

岳書縦走

雁部貞夫 著

菊判・444ページ 特装本と普及本の二種発売!!

●特装本
著者直筆の歌とサイン
美装・天金・箱入
限定版125部(番号入)
定価 16,800円

●普及本
上製本・カバー掛け
定価 5,775円

ヒマラヤ、カラコルム、中央アジアからシルクロード、中国、そして日本の山々についての登山記と紀行文のほか、多彩な文化人が語った自然と民俗・文化についての名著130篇について、著者が鋭い眼で書評・解説した山の《書誌文化誌》。

*特装本につきましては直接小社へお申し込み下さい。

おれにんげんたち

——デルスー・ウザラーはどこに——



黒澤明が感動したように、デルスーに魅かれて

探検家アルセニエフの生涯とその足跡をウスリーのタイガにたずね、二人の友情、自然と人間のかかわりを探究する。

岡本 武司 著
四六判 220頁 1,890円(税込)

ナカニシヤ出版

〒606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町15番地
Tel.075-723-0111 Fax.075-723-0096
URL http://www.nakanishiya.co.jp/

INFORMATION



イラスト 宇都木慎一

◆ 気象講座「白馬岳とその周辺の夏山気象」 科学委員会

過去5年にわたり白馬岳で夏山気象の定点観測をしてきた城所邦夫会員(元日本気象協会)に、ここ2年の観測結果と白馬岳の夏山気象、あわせて他の山域についてもお話しいただく予定です。

講師 城所邦夫会員

日時 7月21日(木)18時30分～20時
場所 山岳会集會室(参加自由)
問合 北野忠彦まで(☎090-3046-1189)

◆ 自然と人間の暮らしを考える
フォーラム「N花巻・遠野

自然保護委員会後援

今年も左記の通り実施します。

期日 8月19日(金)～21日(日)

場所 岩手県花巻市・遠野市ほか
費用 約2万4千円(別に往復バス、現地バス代、入館料等)

■ 第1日 14時花巻農高前集合

「宮沢賢治の家」、生徒会「鹿踊り」等見学後、渡り温泉へ。
夜はビデオ「遠野物語」

「柳田國男と父との関わり」

松本浩男(松本信廣三男)

■ 第2日 ①早池峰山登山 ②

八幡平散策 ③遠野周遊各班にわかれて行動。

夜宿舎で、「東北民謡と踊り」森

謡会、高村光太郎の戦中・戦後

安在孝夫(詩人)、「智恵子抄」東

京インターアーツ

■ 第3日 高村山荘・宮澤賢治記念館見学後、市主催「賢治祭」に参加協力。「注文の多い料理店」劇団芸協観劇後、解散・帰京。

*申込・詳細はハガキ、FAX、

メールにて近藤緑まで

(☎03-33395-0326)

(FAX03-33395-0326)

◆ 「中央分水嶺フィナーレ公募登山」 北海道支部

十勝連峰美瑛富士においてフィナーレ登山を行います。

期日 8月20日(土)～21日(日)

■ 20日午後4時集合、交流会(美瑛町白金温泉白樺荘)
■ 21日美瑛富士登山、オプタেশ

ヶ山方面からの踏査隊を出迎え、望岳台でフィナーレ式を行って、その後解散。

費用 4千円(宿泊費含む)

申込 8月10日までに北海道支部事務局長、長谷川雄助まで

(☎090-6266-3365)

(FAX011-738-8212)

◆ 講演会のご案内

山の自然学クラブ

日時 7月2日(土)

14時15分～17時45分

演題 「ヒマラヤ山脈の誕生と成長―地球の歴史の断面―」

講師 酒井治孝教授(九州大学大学院環境変動部門教授)

場所 東京国際フォーラム(ガラス棟6F会議室G602)

参加費 千円(学生500円)

申込 住所・氏名を記入のうえN

PO法人山の自然学クラブ

プまで(☎045-833-8505)

*先着順に参加証をお送りします。

◆ 奥日光・光徳親山行

恒例行事である光徳集會の案内です。今年の山行は日光白根山を予定しています。

期日 7月23日(土)～24日(日)

集合 23日 17時学習院光徳小屋
費用 7千円
申込 7月10日までに氏名、会員番号、年齢、連絡先を明記し、ハガキかFAXで阿世知義幸宛(〒187-0004 小平市天神町2-2-06-11401 ☎&FAX 042-344-5778)

◆ 自閉症協会への協力登山「男体山」 つくも会

(社)日本自閉症協会のみなさんとご一緒します。日頃身に付けた経験と脚力を役立て、ご協力をお願いします。会員以外の参加も大歓迎です。ご一緒しましょう。

期日 7月30日(土)～31日(日)

交通 自家用車利用

集合 30日午前7時30分

JR武蔵浦和駅東口

宿泊 学習院光徳小屋(二部幕営)

費用 1万円以内

申込 7月18日までに氏名、住所、電話、会員番号を明記し、徳永泰朗まで(〒180-0006 武蔵野市中町2-28-12 ☎0422-1533387)

◆ 「奥穂高集中登山」 ゆきわり会

■ 22

奥穂高岳に自分の力量に合わせ
て登ります。会員外の参加も歓迎
です。

期日 8月19日(金)～22日(月)

①涸沢コース ②重太郎新
道コース ③ジャンダルム
コース ④上級者限定 ④栃
尾温泉直行組

参加費 千円 (通信費等諸経費)

*交通費、宿泊費は各自負担

申込・問合 7月20日までに参加

コース①～④を明記し、ハ

ガキ、FAX、メールで皆

川恵男まで (〒206-0

034 多摩市鶴牧5-17

16 ☎ & ☎ 042-373-

3003

☎ cat21901@pop12.odn.ne.jp)

*申込受付後詳細案内します。

◆「2005 日本山岳画協会展

(定例展)」

自然の詩情を画布に託して描き

続けている日本山岳画協会の会員

16名による作品32点を展示します。

会期 7月4日(月)～10日(日)、11時

～午後6時30分 (10日は午

後5時まで)

会場 朝日アートギャラリー (中

央区銀座4-101 ☎ 0

3-3535-7740)

問合 堀越昇 ☎ & ☎ 049-26
20855)

*入場無料

◆「松田敏男 山の花と山の版画
展」

南・北アルプスの山々や花、約

30点のシルクスクリーン版画展。

日程 7月5日(火)～17日(日)、正午

～午後8時 (11日は休廊)

場所 平安画廊 (京都市中京区寺

町通三条上 ☎ 075-

231-0694)

◆「牧潤一「チベット風景展」

86年から04年秋のラサからカイ

ラスまでのチベットの旅の水彩と

油絵、約30点。

日時 7月19日(火)～24日(日)、11時

創立100周年記念 多機能付腕時計追加注文のお知らせ

時計の頒布については5月末で締切り、450個を越えるご注文
を頂きました。しかし会報のお知らせ(1月、2月号)を見逃した
方や、新入会員の方から購入したいという申し出が続き、メーカー
に交渉して若干の追加注文を受け付けることにしました。ご希望の方
は7月末までにハガキかFAXで刻印(会員番号と血液型)希望の
有無を明記し、事務局までお申込み下さい。1個、2万8千円です。
尚、これからお申込みの方は10月納期に間に合わない可能性があ
ることをご了解ください。

午後6時30分 (24日は午
後5時まで)
朝日アートギャラリー (中
央区銀座4-101 ☎ 0

3-3535-7740)

◆編集後記◆

●4年間の、会報「山」の編集長
の大役を、今月号で何とか終えま
した。昔お世話になった35年前の
山岳会とは、会員数や雰囲気など
すっかり様変わりしており、少々
戸惑いましたが、先輩方の叱咤激
励のおかげで任期をまっとうする
事ができました。ありがとうございました。

●編集方針としては、海外などの

登山活動報告をできるだけ紹介す
るとともに、支部活動などを優先
し、全国の会員と本部をつなぐ唯
一の定期連絡の役割としての「会
報」を意識して取り組んでしまし
た。支部の集いに伺ったり、支部
報などを読ませていただき、登山
に対する熱意に圧倒されましたが、
本部も支部も「高齢化」が進む一
方だなぁ、と痛感させられました。

●マナスルシニア登山隊は異常気
象ともいえるような悪天候で撤退、
残念でしたが、再挑戦への意気も
高いようです。

●5月号で案内した関西支部の報
告書「チャンタンの蒼い空」は好
評につき、山岳会事務局において
も取り扱っております。1冊2千
円です。

今村 千秋

日本山岳会会報 山 721号

2005年(平成17年)6月20日発行

発行所 社団法人日本山岳会

〒102-0081

東京都千代田区四番町5-4

サンビュウハイツ四番町

TEL 東京(03)3261-4433

FAX 東京(03)3261-4441

発行者 日本山岳会会長 平山善吉

編集人 今村千秋

Eメール:jac-kaiho@jac.or.jp

印刷 株式会社 双陽社